

令和3年度尼崎市公営企業会計決算
審 査 意 見 書

令和4年8月

尼崎市監査委員

尼 監 報 告 第 7 号
令和 4 年 8 月 22 日

尼 崎 市 長
稲 村 和 美 様

尼崎市監査委員 村 上 卓 史
同 藤 川 千 代
同 眞 田 泰 秀
同 林 久 博

令和 3 年度尼崎市公営企業会計決算審査意見について

地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定により審査に付された令和 3 年度尼崎市公営企業会計の決算及び決算付属書類の審査を行ったので、次のとおり意見を提出します。

目 次

第1	審査の対象	7
第2	審査の期間	7
第3	監査の方法及び着眼点	7
第4	審査の結果	7
	< 4 事業会計の決算の概況 >	
1	損益の状況	10
2	財政の状況	10
3	キャッシュ・フローの状況	11
	< 水道事業会計 >	
1	決算の状況	15
2	事業経営の現状	22
3	計画に基づく取組と評価	30
4	まとめ	35
	* 審査資料	37
	< 工業用水道事業会計 >	
1	決算の状況	51
2	事業経営の現状	57
3	計画に基づく取組と評価	62
4	まとめ	65
	* 審査資料	67
	< 下水道事業会計 >	
1	決算の状況	81
2	事業経営の現状	88
3	計画に基づく取組と評価	93
4	まとめ	99
	* 審査資料	101
	< モーターボート競走事業会計 >	
1	決算の状況	115
2	事業経営の現状	123
3	計画に基づく取組と評価	126
4	まとめ	130
	* 審査資料	131
	* 用語説明	143

凡 例

- 1 各表中・グラフ中で用いる数値は、原則として表示単位未満を四捨五入している。
- 2 文中で用いる数値のうち、万円単位で表示のものは、表示単位未満を切り捨て、それ以外のものは、原則として表示単位未満を四捨五入している。
- 3 各表中・グラフ中で用いる符号の用法は次のとおりである。

符 号	用 法
△	減又はマイナス
-	該当数値のないもの（該当数値が0のものを含む）
0.0	表中：比率で表示単位未満の数値があるもの グラフ中：表示単位未満の数値があるもの又は該当数値が0のもの
0	表中：①増減・比率等の計算の結果、数値が0のもの ②上記以外で表示単位未満の数値があるもの グラフ中：表示単位未満の数値があるもの又は該当数値が0のもの
***	前年度・当年度の数値の一方がマイナスの場合における対前年度増減率

- 4 各表中の合計、差引、比率等の計算値は、原則として表示単位未満を四捨五入する前の数値を用いて算出しているため、内訳と各計算値は一致しない場合がある。

第1 審査の対象

令和3年度 尼崎市水道事業会計決算
令和3年度 尼崎市工業用水道事業会計決算
令和3年度 尼崎市下水道事業会計決算
令和3年度 尼崎市モーターボート競走事業会計決算

第2 審査の期間

令和4年6月1日から8月10日まで

第3 審査の方法及び着眼点

審査に当たっては、令和3年度の決算及び決算付属書類が関係法令に準拠して作成されているか、並びに決算諸表が事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、について、会計諸帳簿、伝票、証書類を抽出して照合するとともに、関係職員の説明を聴取するなどの方法により確認を行った。

さらに、経営面において、水道事業、工業用水道事業及び下水道事業では、公営企業本来の目的である公共の福祉を増進するように運営がなされているか、常に企業の経済性を発揮しているか、また、モーターボート競走事業では、市財政の健全な運営に寄与しているか、そして常に企業の経済性を発揮しているか、といった視点からも審査を行った。

第4 審査の結果

各事業会計の決算及び決算付属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、かつ、計数は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認めた。

また、経営面において、水道事業、工業用水道事業、下水道事業及びモーターボート競走事業の各会計とも損益及び財政の状況は良好であり、それぞれ事業計画等に基づき、おおむね適切に運営がなされていた。なお、各事業においては、今後の施設・設備の更新等を含めた中長期的な経営について課題が見られた。

4 事業会計の決算の概況

4 事業会計の決算の概況

1 損益の状況

損益計算書総括表

(単位：百万円)

区 分	水道事業会計	工業用水道 事業会計	下水道事業会計	モーターボート 競走事業会計
営業収益	8,839	1,354	9,739	58,260
営業費用	7,750	1,173	10,632	53,265
営業損益	1,088	182	△ 894	4,995
営業外収益	168	395	2,827	68
営業外費用	194	292	513	1,307
経常損益	1,062	285	1,421	3,757
特別利益	16	278	25	-
特別損失	4	-	2	-
総収益	9,023	2,028	12,591	58,329
総費用	7,949	1,465	11,147	54,572
純損益	1,075	563	1,443	3,757

2 財政の状況

貸借対照表総括表

(単位：百万円)

区 分	水道事業会計	工業用水道 事業会計	下水道事業会計	モーターボート 競走事業会計
資産	43,111	20,800	161,069	24,950
固定資産	33,234	12,336	143,232	12,026
流動資産	9,876	8,464	17,838	12,925
負債	16,151	2,955	87,318	4,152
固定負債	11,709	1,231	26,197	195
流動負債	2,175	396	5,411	3,576
繰延収益	2,267	1,328	55,710	382
資本	26,960	17,845	73,752	20,798
資本金	22,560	13,014	42,773	6,205
剰余金	4,400	4,831	30,979	14,638
評価差額等	-	-	-	△ 44
負債・資本合計	43,111	20,800	161,069	24,950

3 キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フロー計算書総括表

(単位：百万円)

区 分	水道事業会計	工業用水道 事業会計	下水道事業会計	モーターボート 競走事業会計
業務活動による キャッシュ・フロー	2,496	644	5,207	4,951
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,000	△ 49	△ 2,891	△ 1,289
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 905	-	△ 579	△ 820
現金・預金増減額	△ 409	595	1,738	2,841
現金・預金期首残高	9,389	7,400	15,290	9,188
現金・預金期末残高	8,980	7,995	17,028	12,030

各事業における当年度決算については、比較的安定した経営状況であり、全て黒字決算となっているが、事業を取り巻く経営環境は、人口減少や少子高齢化による需要の減少など、中長期的に厳しい収益状況が想定されている。また、モーターボート競走事業では更なる売上向上やファンの定着・拡大等による市財政への寄与が期待されるとともに、安定した経営基盤の確立が求められている。

なお、決算状況や各事業の具体的な経営課題及びその取組については、各事業会計の中で説明する。